

第四章  
中

世

## はじめに

平泉藤原氏が奥州を支配し、名実共に東北の王者として四代、政権の掌握と同時に独特の平泉文化を樹立したのであるが、源頼朝の強力な武力の前にあえなく敗れ、全国制覇をなしたとげた頼朝の鎌倉幕府によって、奥州の地もすみずみまでその支配に組み入れられることになった。

次いで南北朝時代、室町時代、桃山時代とこの間約四〇〇年、各地に勢力を得た武将が林立し、いわゆる下剋上の戦国時代の様相を呈するのである。本章は頼朝の命によって置賜地方を支配することになった大江氏（長井氏）の時代と、この長井氏を置賜の地より駆逐し奥州に名をなした伊達氏時代の内、政宗が生地米沢を離れ岩出山に移るまでを述べることになる。古代と同様に当地方に於いては、その資料となるものは極めて少なく、特に長井氏時代は約二〇〇年の年月があるにもかかわらずその資料は僅少なのである。したがって、本章でとり上げる事項も既書き尽くされた事柄であり、事新しいことは少ない。ただ近年になって、伊達氏に関しては様々な角度から見直されているので、そのようなところに力点を置いてみようと思う。当地方において、比較的大きく足跡を残したと云われている鮎貝氏、大立目氏、桑島氏などのこともほとんどわかっていない。